



松島健一 (MATSUSHIMA, Kenichi)

主任研究員 博士 (農学)

1975 大阪府生まれ

2001 農業工学研究所採用 土質研究室配属

2011 農研機構農村工学研究所 施設工学領域 土質担当
(受賞歴)

<論文(奨励)賞>2009年 優秀論文賞

(Best Geosynthetics International Paper)

2009年 論文奨励賞 (国際ジオシンセティックス学会日本支部)

2007年 優秀論文賞 (Best Geotextiles and Geomembranes)

2006年 優秀論文賞 (Best Geosynthetics International Paper)

<技術賞等>2009年 技術賞 (国際ジオシンセティックス学会日本支部)

2007年 NARO Research Prize 2007 (農研機構理事長賞) など受賞



写真1 バングラデシュの子供たち

研究者の横顔

<現在の専門分野>

農業土木、地盤工学 (主に土構造物の防災対策)

<仕事の内容>

農業用水を貯める、送る農業用インフラ施設 (ため池や水路など) を主な対象として、洪水や地震に強い土構造物の整備技術に関する研究・開発を行っています。また、途上国への技術協力も行っています。

<最近想うこと>

2010年にJICAの協力を得て、洪水被害が著しいバングラデシュにおいて農村道路の補強対策を実施したときの経験をお話したいと思います。バングラデシュは日本の面積の2/3ほどですが、人口は1億5千万人以上の人口を擁しています。世界の中でもかなり貧しい国で、栄養失調や貧困で苦しみ、不衛生な環境のため多くの幼い命がなくなっています。

しかしながら、テレビで見るのと同じように、現地の子供たちの目はキラキラと輝いていました。現地の知識人と話をしたとき、農民は経済的な豊かさよりも、その日食べられるものと寝るところがあれば、十分幸せなんだと語ってくれました。もちろん、上・下水道、電気もありませんが・・・。また、とても興味深いことに、自殺の原因は経済的な問題よりも縁者関係の悩みが大半を占めていると言っていました。日本では経済的な問題が大きな割合になっているよということ、びっくりしていました。

経済的な発展を追い求める現代社会とは別に、自然と人間の営みに根ざした持続的な社会の重要性を私たちは忘れてはならないと思います。また、「農業土木の魅力」は、その実現に向けたお手伝いができる点があると強く感じています。



写真2 バングラデシュ技術者を対象とした現地研修会
(人力で土のうを積み上げ、補強した農村道路の前で撮影)